

医師らの助言を受けながら、縫い合わせを体験する参加者
(大石祐希撮影)

超音波メスで切開、糸や針で縫合も

中学生医師の仕事体験

北見日赤病院 参加者「興味わいた」

中学生が本物の医療器具を使って医師の仕事を経験する「アトラク・シャックセミナー」が24日、北見市の北見赤十字病院で行われた。

(山田健裕)



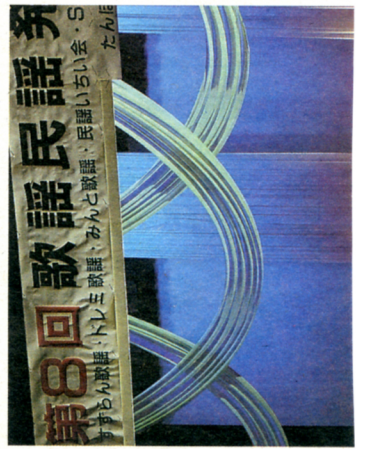
子どもたちに医療の仕事に興味を持ってもらおうと、医療用品大手シモン・エンド・シモンが医療機関と協力し、全国各地で開催している。北見では2016年以来2回目で、

市内や網走市、津別町の計7校30人と、医師や同社の社員ら約20人が参加した。

会場には鶏肉を超音波メスで切開したり、皮膚を横したバットを糸や針で縫い合わせたりする体験のほか、カテーテル手術の様子を仮想現実(VR)機器で見学できるブースなどが用意された。生徒たちは医療現場で使われる青いガウンなどを着用し、医師らのアドバイスを受けながら、興味津々の様子で体験した。

北見・光西中3年の小野響さん(15)は「VRの再現度の高さがすごかった。超音波メスの体験も面白く、医療の世界に興味わいた」と話していた。

力強い歌声を響か



鍛えた歌声 伝

北見で歌

北見市内外の歌謡・民謡サークル会員が披露する「第8回歌謡・民謡発表会」が24日、北見市民会館で開かれた。

角田歌謡民謡サークルの主催。北見や美幌町の7団体、幼児から80代までの約80人が出場し、抑揚やこぶしを巧みに織り交ぜ、日ごろの練習で鍛え上げた歌声